

令和 2 年度  
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人千葉県文化振興財団	
施 設 名	千葉県文化会館	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業	
内定額(総額)	16,233	(千円)
公 演 事 業	1,292	(千円)
人 材 養 成 事 業	14,941	(千円)
普 及 啓 発 事 業	0	(千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	第26回ちば県民合唱団 定期演奏会 カール・ オルフ「カルミナ・ブ ラーナ」	2年5月17日(日) ※	新型コロナウイルス感染症の影響により中 止。	目標値	1,000
		大ホール		実績値	— ※
2	見る、知る、伝える千 葉 ～創作狂言「里見 八犬伝 其ノ零(再 演)」～ ※	2年12月5日(土)	出演：小笠原由禰、山下浩一郎 他 作・演出：小笠原由禰	目標値	164
		大ホール ※		実績値	128※
3	朗読劇 「おもかげ抄」 「蜘蛛の糸」	3年2月11日(木祝) ※	出演：南 一恵、見上裕昭	目標値	200
		小ホール		実績値	87 ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## (2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	千葉県少年少女オーケストラ育成事業	2年7月5日 ～3年3月28日 ※	音楽監督：佐治薫子 特別指導：宮川彬良、下野竜也、山田和樹	目標値	160
		練習室、大ホール		実績値	160
2	結成25周年記念 千葉県少年少女オーケストラとアキラさんの大発見コンサート2020 千葉公演	2年8月22日(土)	曲目：大発見マーチ、運がよけりゃ 他 出演：宮川彬良 他 音楽監督：佐治薫子	目標値	1,750
		大ホール		実績値	439 ※
3	結成25周年記念 千葉県少年少女オーケストラとアキラさんの大発見コンサート2020 浦安公演	2年8月23日(日) ※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	1,188
		浦安市文化会館 大ホール		実績値	— ※
4	結成25周年記念 千葉県少年少女オーケストラ第25回定期演奏会	3年3月28日(日)	曲目：交響曲第5番「運命」 他 ※ 出演：下野竜也、清水和音 他 ※ 音楽監督：佐治薫子	目標値	1,790
		大ホール		実績値	850 ※
5	千葉県こども歌舞伎アカデミー	2年8月～3年2月 ※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	25
		大ホール、会議室 他		実績値	— ※
6	こども歌舞伎公演	3年2月28日(日) ※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	1,000
		大ホール		実績値	— ※
7	第34回若い芽のαコンサート	2年6月28日(日) ※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	1,790
		大ホール		実績値	— ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価																				
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>																				
<p>1. ミッション、ビジョン、地域特性・ニーズ、施設の強み・特色と各事業の連関について</p> <p>・当劇場は、千葉県の条例に基づく「福祉向上」や「文化の発展」に資することを目的として設立され、「文化資源の活用」「新たな文化を掘り起こす」ことによって「千葉県に対する愛着や誇りを育み、活力に満ちた地域社会の形成に貢献する。」ことを目指している。</p> <p>ミッション・ビジョンは県の第2次ちば文化振興計画から、鑑賞機会の格差解消・文化芸術団体の担い手不足に焦点を当てて設定し、地域特性・ニーズを踏まえた戦略を導きの糸として5つのカテゴリーに個別の事業を分類して展開した。</p> <p>（「公演事業」は当館の「鑑賞事業」と「県民参加事業」の考えに、「人材養成事業」は「人材育成事業」の考えに沿ったものである。）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ミッション</th> <th>ビジョン（楽しむ・育む・伝える）</th> <th>5つの事業カテゴリー</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 文化芸術に触れ親しむ環境づくり</td> <td>(1) 鑑賞・参加の機会拡充</td> <td>① 鑑賞事業</td> </tr> <tr> <td>2. 文化芸術の創造・発展・継承</td> <td>(2) 人材の養成</td> <td>② 県民参加事業</td> </tr> <tr> <td>3. 文化芸術活動を支える仕組みづくり</td> <td>(3) 地域との協働による多彩な展開</td> <td>③ 創造事業</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>④ 人材育成事業</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>⑤ 普及事業</td> </tr> </tbody> </table> <p>○地域特性・ニーズ</p> <p>オーケストラや吹奏楽、合唱などアマチュアの音楽活動が盛んに行われている。</p> <p>千葉県が実施した「文化芸術の振興に関するアンケート調査」によれば「子供たちが文化芸術に親しむ機会の充実」を望む声が高い。(47.5%)</p>			ミッション	ビジョン（楽しむ・育む・伝える）	5つの事業カテゴリー	1. 文化芸術に触れ親しむ環境づくり	(1) 鑑賞・参加の機会拡充	① 鑑賞事業	2. 文化芸術の創造・発展・継承	(2) 人材の養成	② 県民参加事業	3. 文化芸術活動を支える仕組みづくり	(3) 地域との協働による多彩な展開	③ 創造事業			④ 人材育成事業			⑤ 普及事業
ミッション	ビジョン（楽しむ・育む・伝える）	5つの事業カテゴリー																		
1. 文化芸術に触れ親しむ環境づくり	(1) 鑑賞・参加の機会拡充	① 鑑賞事業																		
2. 文化芸術の創造・発展・継承	(2) 人材の養成	② 県民参加事業																		
3. 文化芸術活動を支える仕組みづくり	(3) 地域との協働による多彩な展開	③ 創造事業																		
		④ 人材育成事業																		
		⑤ 普及事業																		
<p>2. 当初の予定通りに事業が進められたか。</p> <p>・当劇場が得意とする大学や音楽団体とのネットワークを駆使した公演や、県内には熱心な演劇人の存在があり、多くの市民劇団が活発な活動を行っている背景から、演劇分野にも幅を広げた新規公演の計3本の「公演事業」、また、都道府県レベルでは初のジュニアオケ、千葉県少年少女オーケストラの活動を旋回軸とし、青少年の育成、文化芸術の担い手不足という社会課題の解決に向けた「人材養成事業」の7本が助成対象事業であった。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により、公演事業は3本のうち1本が中止。人材養成事業は7本のうち4本が中止せざるを得ない状況に追い込まれた。「当初の予定通り」とはいかなかったが、延期や（ディスタンス確保のため小ホールから大ホールへの）会場の変更、座席数制限、曲目の変更、練習方法の工夫など、安心・安全のための様々な措置によって助成対象事業10本のうち5本の開催を実現させることができた。</p>																				
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>・地域特性やニーズを踏まえた事業群を形成し、蓄積してきた事業運営の経験や舞台技術のノウハウを文化団体や県民に還元して事業を展開している。助成対象事業から派生して、文化事業が少ない文化施設での公演を行い、地域への波及といったループを形成している。</p> <p>・「音の響きの良さ」を活かし、音楽を中心としつつも特定の分野に偏ることなく、子供たちが文化芸術に親しむための多様なチャンネルを設け、次世代への文化芸術の「創造・発展・継承」を目指した‘人づくり’を行っていることから「文化的意義」が認められる。</p> <p>・令和2年度に千葉大学と包括連携協定を締結した。千葉県で生まれた民話・伝承・習慣を題材とした作品創造、大学への講師派遣、博物館やNPO法人との協働によって、地域社会が「ふるさと」を再発見する仕掛けを強化していることから「社会的意義」が認められる。</p>																				

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### 1. 目標・指標設定の考え方

・「千葉県が抱えている課題」（鑑賞機会の格差解消、文化芸術団体の担い手不足）と、「ニーズ（アンケート調査から）」（子供たちが文化芸術に親しむ機会の充実）をベースに組み立てた当館の企画を、当該補助金メニューの「公演事業」「人材養成事業」に割り当てて計画を立て、下記の目標を設定した。

##### (1) 公演事業

目標1：質の高い文化芸術を県民に届けることで鑑賞者を掘り起こし育成すること

目標2：県民を主役と位置づけて創作や発見の場を通して、文化活動の裾野を拡大すること

##### (2) 人材養成事業

目標1：千葉県出身の若いアーティストの才能を伸ばし、様々な舞台で活用できるような支援の仕組みをつくり、実演家の養成を行うこと。また、その実演家を起用して鑑賞者を掘り起こすこと

目標2：当館を拠点としている「千葉県少年少女オーケストラ」、「千葉県こども歌舞伎アカデミー」の活動の幅を広げること

#### 2. 指標設定の根拠（データの種類、実績）、指標の達成

公演事業の指標根拠	過去データ、実績	実績	達成の有無
来場者アンケート満足度	過去実績 98.6%以上（満足やや満足以上）	100.0%	達成
入場者数・参加者数（平均）	大ホール（1,140名以上 63.7%） 小ホール（241名以上 95.6%）	狂言 79.0% 朗読劇 83.7%	概ね達成
ワークショップ参加者数	19名以上	中止	—

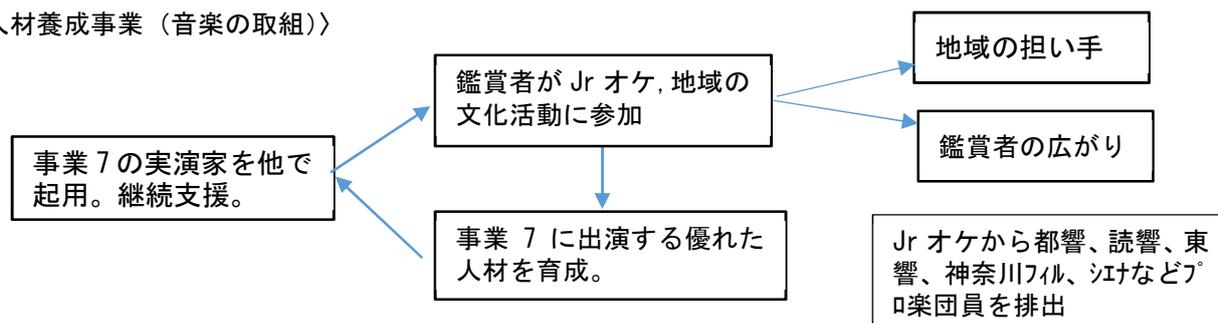
人材養成事業の指標根拠	過去データ、実績	実績	達成の有無
Jr 竹来場者アンケート満足度	満足度 100.0%（満足やや満足以上）	100.0%	達成
Jr オケオーディション参加者数	過去5年平均 34名以上	16名	コアの影響
団員参加状況（県内地域別）	（県内54市町村の中で）これまで参加がない 13市町村から	なし	コアの影響
歌舞伎アカデミー参加者	25名以上	中止	—
α来場者アンケート満足度	過去実績 90.4%以上（満足やや満足以上）	中止	—

#### 3. 目標が達成されたか

・公演事業、人材養成事業共にアンケート満足度調査の結果、その他に創作狂言ではソーシャルディスタンスの確保から会場移動を行い安心・安全の開催を実行した上で、指標数値に実績を残せたという結果を鑑みて目標はある程度達成したと言える。ただし、指標の項目は、目標の達成を測定する上で必ずしも十分とはいえず、今後は的確な指標設定と有効なエビデンスを取得すべく努力していきたい。

また、人材養成事業では、下図のようなサイクルが形成されつつあるので、さらなる発展を目指したい。

〈人材養成事業（音楽の取組）〉



### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### 1. 「事業期間」について

##### (1) 「公演事業」

・ 県民の参加を得て行う公演（事業番号 1）、大学との連携による公演（事業番号 2）は最低でも半年以上かけて稽古を重ねながら作り上げるものであり、専門家（合唱指導、狂言師）による緻密な計画を立て準備を進めた。これまでも述べてきた通り新型コロナの影響により、練習、稽古を行うことができず中止「1」や演目の変更「2」（新作初演から再演）を選択せざるを得なかった。「3」については、プロによる乗り打ちの公演。安心・安全の配慮から「夏休み期間」の実施を避け、延期の選択をした。

・ 以上、計画の時点では「事業期間」は適切であったと言えるが、中止せざるを得なかった公演もあり、様々な努力により実現に至った公演も、演目変更、延期を余儀なくされたことから、必ずしも当初計画どおりに進んだとは言えなかった。

##### (2) 「人材養成事業」

・ 結成から 25 周年を迎えた千葉県少年少女オーケストラの育成（事業番号 1～4）（160 名の団員が、年間 100 回以上の練習活動によってサウンドを作り上げ、定期演奏会など計 3 本の成果発表公演を行う）、多くの子供たちが伝統文化に触れ、親しみを持ってもらえるきっかけづくりを目指した「千葉県こども歌舞伎アカデミー」（事業番号 5）（7 か月、25 回の稽古）、千葉県出身、在住などの若手演奏家がプロオーケストラと共演する育成型公演（事業番号 7）を計画。こちらも計画の多くに変更が生じた。「1～4」は、年間を通して継続活動を行う性質の事業である。オーケストラは安全の検証を重ねたうえで 7 月から練習再開、8 月に宮川彬良氏を迎え公演時間の短縮、座席数制限を設けるなどの措置を講じ劇場主催事業の先陣を切った。感染予防対策に万全を期して練習を重ねたが、定期演奏会に予定した合唱付きの大曲ヴェルディ「レクイエム」は曲目変更を余儀なくされた。「5～7」は開催や活動スタートの見通しが立たず中止の選択をした。

#### 2. 「事業費」について（中止した事業を除く）

##### (1) 入場者・参加者

・ 継続事業は例年のデータから算出、新規事業は 80% を目指した。結果は計画を下回った。

（下表参照。座席数制限や会場の変更が生じたため実績/目標の算出は行っていない。）

	公演 2	公演 3	人材 1	人材 2	人材 4
	創作狂言	朗読劇	少年少女オケ	オケ公演	オケ定期公演
目標値	164 名	200 名	160 名	1,750 名	1,790 名
実績値	128 名	87 名	160 名	439 名	850 名
制限/会場変更	50%/あり	50%/なし	160 名の団員	1F のみ 50%	50%/なし

##### (2) 収支決算（要望時と実績報告時における助成対象経費の比較）

・ 事業費は、指定管理料（指定管理期間 5 年間の定額）並びに入場料・参加料収入から予算組みを行っている。

「人材 1」は練習を 2 班にしたため指導料の増、「人材 4」は合唱なしの曲目に変更。

	公演 2	公演 3	人材 1	人材 2	人材 4
	創作狂言	朗読劇	少年少女オケ	オケ公演	オケ定期公演
要望→実績報告	減	増	増	減	減
コロナの影響	会場変更	延期	練習 2 班体制	内容大幅変更	内容大幅変更

・ 以上、アウトプットに対する「事業期間」「事業費」については、中止せざるを得なかった公演もあり、様々な努力により実現に至った公演も、演目変更、延期など変更を余儀なくされたことから、必ずしも当初計画どおりに進んだとは言えなかった。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### 1. 機能を最大限に発揮するための資源「視点1」

(1) 劇場を象徴する人物、鍵となる人物（キーパーソン）の存在（舞台芸術に関する責任者等の役割）

・長い間小・中学校で音楽の教師を務め、合奏のコンクールで優秀な成績を取ってきた人物が、結成以来 25 年間「千葉県少年少女オーケストラ」の音楽監督として楽団を牽引している。「文化振興」と「青少年の育成」という目的のもと、最高の演奏を聴衆に届けるために、上級生は下級生のお手本になるための研鑽、下級生は上級生の演奏を聴き「良い音」を学ぶ、この輪と和によって伝統のサウンドを継承してきている。

(2) 専属団体、フランチャイズ団体、提携団体の存在

・ジュニアオケは、1996年に都道府県レベルでは全国初となる少年少女オーケストラとして結成。県内在住または通学する 10 歳から 20 歳まで 160 名の団員が「良い音で、良い演奏を」をモットーにコロナ禍の状況の中でも音楽監督・スタッフ、トレーナーが感染防止対策に万全を期して練習、演奏活動を続けている。

楽団は、県内はもとよりサントリーホールや、アメリカ、ドイツ、ブルガリア、韓国などでも演奏を行い、広く発信を続けており、令和 2 年度は 3 本の公演を実施した。

助成対象事業の公演は常に満席の結果を出してきたが、令和 2 年度は、客席数の制限を設けたため「効率性」の 2 (1) で記載した通りの結果となった。

・また、当劇場を拠点とし「おらがまちのオーケストラ」を掲げるプロオーケストラ「千葉交響楽団」とは様々な事業（ジュニアオケ、県民合唱団等）において連携を推進している。

(3) 創造活動に関わる建物設備

・「音の響きの良さ」は分野の専門家も高く評価するところである。高機能を有する劇場ではないが、大ホールは舞台や客席の独特の立体感と雰囲気、巨大なホワイエの佇まいが相まって唯一無二の空間を作り上げ、老若男女問わず県民から高い支持を得ている（公演や施設アンケートから）。これまでに日本建築学会賞作品賞、BCS 賞、公共建築 100 選を受賞したが、開場 50 年以上を経た現在、建築物の面でも再び注目を集めている。

(4) 安全確保のための取組内容等

・新たに感染防止対策を取り入れた消防訓練（会館職員から清掃スタッフに至るまで全員が参加）を実施。また、高齢者の観客や来場者に対応するため、心配蘇生や AED の使い方を学ぶ普通救命講習、障害者に対する介助方法を習得し防災介助士の資格を習得するなど、安全・安心の取組を積極的に行なっている。

#### 2. 機能を最大限発揮する事業として優れているか（視点2）（実施した事業についてのみ記述）

(1) 「公演事業」

・「見る、知る、伝える千葉 創作狂言『里見八犬伝 其ノ四』」（事業番号 2）は、千葉大学と和泉流狂言師との連携によって千葉で生まれた民話・伝承・習慣などを取り上げた「創作狂言」を制作したものである。題材には滝沢馬琴「南総里見八犬伝」を取り上げ、「其ノ零」を皮切りに 5 年をかけストーリーを完遂する取り組みで、今回を集大成と位置付けた公演。結果としては学生や公募キャストが参加できず「其ノ零」を再演。

・「朗読劇『おもかげ抄』『蜘蛛の糸』」（事業番号 3）は千葉県在住の俳優（文学座に所属）による「平日の昼」の公演によってシニアのニーズに応え、併せて学生もターゲットとし開催日を夏休み中に設定した。結果として公演は 2 月の上演に延期。

(2) 「人材養成事業」

・「千葉県少年少女オーケストラ」（事業番号 1, 2, 4）は、「視点 1」で述べた考えに基づいて練習活動を継続し、成果発表の場である各公演では質の高い演奏を行い、聴衆からも高い指示を得るに至った。

・以上のことから、計画の変更はあったものの、地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であったと概ね認められる。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

「ステークホルダーの期待や地域のニーズに対し、劇場は自らのもつ技術、人材、情報（ノウハウ・アイデア）等の資源を投入し応えているか」という観点で記述。

・「妥当性」の項で述べたとおり、県の第2次ちば文化振興計画から鑑賞機会の格差解消、文化芸術団体の担い手不足を念頭にミッションを設定し、オーケストラや吹奏楽、合唱などアマチュアの音楽活動が盛んに行われている地域特性の特性やニーズ（千葉県が実施した「文化芸術の振興に関するアンケート調査」によれば「子供たちが文化芸術に親しむ機会の充実」を望む声が高い）を踏まえつつビジョン（戦略）を立て、事業計画を作成した。

・「公演事業」は単に鑑賞するだけではなく、例えば大学や音楽団体とのネットワークを駆使して、授業への講師派遣やキャストに大学生や公募の県民を起用するなど、鑑賞型以外の要素が3つのビジョンに作用し合うことによって、ミッションを達成するように計画している。

・中止せざるを得なかった「カール・オルフ『カルミナ・ブラーナ』」は、オリンピックの機運醸成に照準を絞り初夏（5月）に開催日を設定。県内各地から集まる「劇場付きの合唱団員」と児童合唱団、千葉県交響楽団協会（アマチュアのオーケストラ連合体）が、年度をまたぎ8か月をかけて練習を重ねて作り上げるもので、県民が主演＝一人ひとりが文化の担い手である、という考えに基づいている。

・事業に多様なチャンネルを加えるために、県内には市民劇団が数多くあり活発な活動を行っている背景から、演劇分野にも幅を広げて公演を行った。ややもすれば感染拡大で逆風にさらされる演劇界の状況下、キャストもスタッフ（照明・音響）も最小限で臨む座組によって表現活動としての可能性を探り、県下における演劇・芸術活動の停滞に一石を投じることとなった。

・「人材養成事業」は千葉県少年少女オーケストラの活動を巡回軸として、青少年の育成、文化芸術の担い手不足という社会課題の解決に向け、残念ながら中止せざるを得なかったが、若手演奏家のプロオケとの共演、子供の伝統芸能体験をラインナップに揃えた。

県内の子供達の文化活動は休校や部活動の時間短縮によってままならない状況であったが、ジュニアオケの活動については、「聴衆の心を震わせる音楽を届けて人々を元気付けたい」という団員の思いを具現化すべく継続の道を模索した。文化芸術活動や公演の再会に兆しが見えた8月の公演では時間を短縮して開催、これを皮切りに新型コロナウイルスによる影響や令和元年度房総半島台風など災害復興を祈念したコンサートに向けた練習（公演は助成対象外）、1年の集大成である定期公演も演奏者の人数を絞って実現させた。

感染予防対策に万全を期して練習では2班体制を導入し、公演では、国内外で活躍する一流の指揮者や演奏家を招いて聴衆を魅了する音楽を提供することができた。

なお、公演の様子はテレビやラジオ、YouTubeによる配信によって広く人々に楽しんでもらえるよう発信にも注力した。地域との交流やふれあいを深める新しい手法を開発していきたい。

また、来場者サービスの一環として実施している千葉駅までの直通バスの運行は、催物の減少などによる利用者の減少が懸念されたものの、徐々に催し物が再開した8月からは運行台数を減らすことなく実施してサービスのクオリティ維持に努めた。

・以上のことから、地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながったと概ね認められる。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

#### 1. コロナ禍における当館の姿勢

・新型コロナウイルス感染症の影響に向き合いながら「文化芸術の灯を絶やさない」「将来を見据えた投資の眼差しで文化サービスを提供する」「柔軟な発想で、文化活動を継続ための知恵を絞る」という姿勢に立っている。

千葉県においても、実演芸術家は練習場所の確保には大変苦慮することとなっていた。そのような状況下、興行の中止や延期により発生したホールの空き時間を、県内で活動しているプレイヤーなどにリハーサルの場として大ホール（1790席）を無料で提供。技術の維持とさらなる研鑽に充ててもらおうと支援を行った。また、やっとプロの公演に再開の兆しが見えた夏休みの期間には、夢を与える場・劇場から子供たちの足が遠のくことを少しでも、食いとめるために、「今、何ができるか」という視点に立ち、舞台の裏側を見てもらおうと「文化会館探検ツアー」を敢行。これらの取組みは、アーティストからも子供たちとその保護者からも好評を博すこととなった。

・ご来館いただかなくても生の舞台芸術の魅力を味わっていただくという考えから、公式YouTubeを開設し、妥当性、創造性でも述べたように、千葉県少年少女オーケストラの定期演奏会などを公開する新しい楽しみ方を提供した。

#### 2. 事業終了後も持続的に発展することができる組織構築

##### (1) 人材面

・「劇場・音楽堂は人材により成り立つ」「一人ひとりが、千葉県の文化振興を担うプロフェッショナルである」という共通認識のもと、人材育成と組織の活性化には心血を注いできた。とりわけ、舞台技術の資格取得、アートマネジメント知識の向上や緊急対応能力の向上にも努めた。研修等の受講は例年の50%程度に留まったものの、約30種類に及び、参加人数は延べ158名に達した。

併せて先輩職員が後輩職員をサポートすることで知識、技術、管理能力の向上を図る当館伝統のメンター制度を駆使して、スキルアップを図った。

なお、ジョブ・ローテーションによって職員が施設管理や総務の業務、企画・立案の業務、さらには舞台技術業務を経験することによって、総合的な劇場マネジメントの能力を養っていることも強みであると考えている。

##### (2) 財務面

・利用料収入のマイナスにより減収となったものの、経営計画に基づく無駄を省きつつ無理のない範囲での効率的な経費節減、光熱水量の使用料節約に努める一方で、収入増加に向けファンドレイジング活動、設置者からの指定管理料、メセナ支援によって、安定した経営基盤の確立に努めた。

また、公益財団法人の優遇税制措置を活かした寄付金の獲得、文化庁や経済産業省といった国や県、民間助成団体などからの助成金の獲得にも取り組んだ。

##### (3) ネットワーク面

・県内公立施設の拠点という意識から、国の施策や新型コロナにまつわる施設の対応に関する情報提供、感染防止対策への助言を積極的に行い、千葉県54市町村の劇場・音楽堂のリーダーシップをとっている。大学との連携協定による協働などネットワークづくりに積極的に取り組んでおり、自主事業を行っていない文化施設での公演など地域への還元というループを形成している。

・以上、妥当性で述べたミッション、ビジョンに基づき年度の実施計画（Plan）を策定し、文化事業、管理事業、経営の実施（Do）、進捗状況の管理・調査や評価の実施（Check）、次年度に向けた改善（Action）のサイクルを回している。

今後も継続して確固たるPDCAサイクルを構築し、持続性の強化によって組織の発展を目指す。そのために、外部専門家による助言や諸課題解決のための検証などアドバイザーの起用を検討している。